日ごろの防犯活動に感謝状

開成駅前連絡所ボランティア安全サポーター

1月11日(金)、開成駅前連絡所前で、田畑松田警察署長から開成駅前連絡所ボランティア安全サポーターに感謝状が贈られました。

安全サポーターは、駅前に交番を誘致するために平成14年に発足して以来、駅前連絡所を活動拠点とし、周辺のパトロールやごみ拾い、児童・生徒の下校時の見守りパトロールや声かけなどを行っています。

感謝状を受け取った代表の西海(にしがい)一男さん(下島)は、「ありがたいことで、今後の活動の励みになります。安全サポーターは現在48人で、平均年齢は約65歳。ボランティアで活動していますが、警察と連携をとって、町と協力しながら今後もがんばっていきたい」と喜びを語ってくれました。

そして、町民から「夜間、駅前連絡所にあかりが付いていると安心する」といった声やさまざまな相談ごとなど、これまでの活動を振り返りながら話してくれました。その表情からは、活動で出会った人々との温かい交流がいかに安全サポーターの皆さんの支えになっていたかが見て取れました。

問 環境防災課☎84-0314

授与式に駆けつけた安全サポーターの皆さん。田畑松田警察署長、小澤副町長とともに。感謝状を手にしているのが西海さん。

県西地域 合併検討会情報③

なぜ今、合併なの?

平成12年に地方分権一括法が成立し、「平成の大合併」が全国的に行われています。県西地域の2市8町(小田原市・南足柄市・中井町・大井町・松田町・山北町・開成町・箱根町・真鶴町・湯河原町)でも、「県西地域合併検討会」を設立して市町村合併のあり方などについて調査・研究を行っているところです。

では、なぜ今、これほどまでに市町村合併の検討が必要なのでしょうか。

①日常生活圏が拡大しています

交通網の発達などにより、住民の生活圏は市町村の区域を越えて広がっています。

②少子高齢化が進んでいます

少子高齢化の進行と「人口減社会」の到来により、税金を負担する人が減る一方、高齢者医療や福祉関係経費が増え、市町村の財政運営に大きな負担が生じることが予測されています。

③厳しい財政状況

国も自治体も行財政改革に取り組んでいますが、その成果には限界があります。

④地方分権が進展しています

国から地方への分権の推進により、住民に最も近い基礎自治体である市町村には、自らの判断と責任で、安定した質の高い行政サービスを立案し実行することが求められています。

⑤単独の市町村での対応が困難な課題が増えています

ごみ処理、消防など、単独の市町村では対応が困難な広域的な行政課題があります。

また、多様化・高度化する住民ニーズに対応できる専門知識や高度な能力をもった職員の設置は、小規模市町村には困難です。

全国の合併状況は?

平成11年3月31日に3,232あった市町村数は、平成19年12月31日には1,798になり、約44パーセントも減少しました。なかには70パーセント以上も市町村数が減少した県もあります。

県内でも、相模原市が平成18年3月20日に津久井町、相模湖町と、また平成19年3月11日には城山町、藤野町と順次合併をしました。

このような背景から多くの市町村合併が行われていますが、私たちが住む県西地域も決して例外ではなく、町民、議会、行政が一体となって市町村合併について正面から話し合う時期が来ているのです。次号では、市町村合併のメリットと課題についてお伝えします。

県西地域合併検討会の検討状況などは、ホームページをご覧ください。

http://www.city.odawara.kanagawa.jp/gappei/

問 企画政策課☎84-0312

表彰おめでとうございます

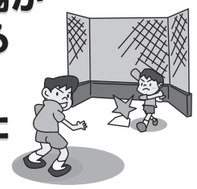
山口 タミ子さん(円中)

平成19年12月18日(火)に神奈川県庁で、開成町明るい選挙推進協議会会長の山口タミ子さんが、神奈川県選挙管理委員会から16年にわたる明るい選挙推進活動の功績を認められ、表彰されました。

明るい選挙推進活動とは…

有権者が主権者としての自覚を持ってすすんで投票に参加し、選挙が公明かつ適正に行われ、私たちの意思が正しく政治に反映される選挙を推進するため、ボランティアで啓発活動などを行っています。

水辺スポーツ公園の軟式野球場が利用できるようになりました



台風9号の影響を受け、利用できなくなっていた水辺スポーツ公園の軟式野球場が1月12日(土)から使えるようになりました。利用希望のかたは、水辺スポーツ公園へお申し込みください。

問 生涯学習課☎82-5221
水辺スポーツ公園☎83-1331

先人の知恵と治水への思い

川丈六地蔵を訪ねて

~まちづくり情報特派員特集・その②~

富士山の宝永の噴火後、酒匂川の治水にあたった田中丘隅(ぐ)は、水害に備え、堤防を守る工夫の一つとして、酒匂川の急所ともいえる6か所に奉った地蔵を川丈(かわたけ)六地蔵と名づけ、後世に伝えました。(広報かいせい1月号参照)

今回は、川の中流、左岸の三角土手と右岸の九十間(くじっけん)土手にあるお地蔵さんを訪ねます。

◎三角土手のお地蔵さん

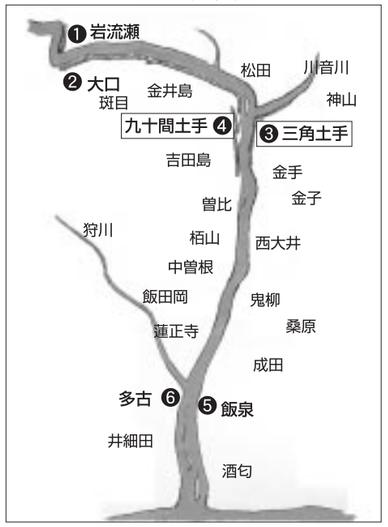
酒匂川と川音川の合流点にある三角土手。その土手の上に、木立に囲まれた小さな石造りのお堂があります。お地蔵さんは、その中に赤い帽子と前掛けをして安置されていました。川の合流点という要所にあるためか、お堂の内部もよく手入れされ、地域のかたもたいせつにまつられているのでしょう。

◎九十間土手のお地蔵さん

開成町の祖師堂にあるお地蔵さんですが、六地蔵の中でもっとも破損が激しく、顔立ちも判別が難しい姿でした。いく年月を風雪に耐え、自然界の厳しさ、世の「難」を、ただただ一身に浴びて来たように鎮座されています。

まちづくり情報特派員 石崎 雅美 前田(まえだ)せつよ

六地蔵の位置



頭は上流の岩流瀬❶と大口❷、真ん中の腹は中流の三角土手❸と九十九間土手❹、脚は下流の飯泉❺と多古❻です。
富士山宝永大噴火300年史調査研究会発行「富士山と酒匂川」より

右が九十間土手のお地蔵さん、左が三角土手のお地蔵さん。